1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	平成27年10月14日	評価結果市町村受理日	平成28年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成27年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ清流式番館は 1.寝たきりにさせない 2.メリハリをつけた生活リズムの継続 3.残存機能を活かしてできることはご自分で合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目となる「クララ清流式番館」は、隣接する開設10年となる「クララ清流」とは姉妹関係にある。相互に、日常的に密接な交流を持つことで安定したホームの運営に資している。昼間、レクリエーション、体操、唱歌、散歩など目いっぱい体を使うことで熟睡を誘うという生活リズム作りを実践し、利用者全員表情が明るく活気のあるホームである。人材確保という課題には特に注力しており、キャリアパスの支援などを通じた信頼関係で若い職員が育っている。運営推進会議の議題項目の定型化をすることで、参加者の発言を促し、参画意識を高めるとともに、議事録も運営に活用しやすくなっており大いに評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域から真に求められるホームとなるよう、事業所理念「尊い存在として大切に思う心」を持って管理者の指導の下、ケア実践に努めています。	一人ひとりの尊厳の尊重を旨とした事業所理念を掲げ、職員一同明るくケアの実践に努めている。人材の確保が難しい状況ではあるが、この明るさに惹かれ、やる気を出した若い職員を後継者にすべく育成に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の際に、ご近所の方々とはあいさつを兼ねてお話するようにしています。地域行事や清掃への参加、リサイクル回収への協力をし、接点を持つように努めている。	自治会の会員として、日常の清掃など地域の活動に積極的に参加し責務を果たすことで地域との距離を置かない努力をしている。地域からの相談にはいつでも応じる体制をとっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談などに来られる方はいませんでしたが、いつ相談に来ていただいても対応可能な事業所です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。参加して下さるご家族様も多く、安心し信頼して頂けるように、報告や話し合いを行っている。	運営推進会議として議論すべきテーマを明記した議事録フォーマットを作り参加者からの意見を吸い上げやすい工夫がされている。出席者の参加意識が高まり、会議が前向きに機能している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員は運営推進会議にも出席されるので、様子を知っていただく機会となっている。	グループホーム連絡会や、シルバーサービス入所部会など、行政や業界関係者とのコミュニケーションを重視して積極的に活動している。行政も運営には強い関心を持って参加しており緊密な連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については小さなことでも必ず上司に確認して、行わないよう努力している。身体拘束に関する外部研修も全員が受講できるよう目指している。	身体拘束はしない方針で臨んでいる。言葉かけなどの工夫で心の安定を図ったり、毎日の散歩で外気に触れるケアで落ち着いた生活ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・言葉の虐待でもスタッフ同士、声かけしながら見過ごさないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については今後勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、ご家族様からの質問等を含め、時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からの意見要望は常日頃、聞くようにしています。運営推進会議でもその場を設け、運営に反映させている。	運営推進会議に家族の参加が多いのが特徴である。管理者は話しやすい雰囲気作りに腐心している。情報誌「クララ通信」もよく編集されており、ホームの状況を的確に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日々、スタッフの意見提案を聞いている。ミーティングも行っています。	職員とのコミュニケーションは日常的に直接、あるいは連絡ノートで行われている。管理者は人材育成に力を入れており、積極的に職員とかかわりを持つ努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を常に行い、職員の考えていることを汲み取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	小さなケアについても、スタッフがわからなければ必ず現場で指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会を通してそのような機会があればとらえたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を良くお聞きし、上手く伝えられない方にも出来る範囲で声かけし意思を確認するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートなどを活用しながら、ご家族の不安や要望を汲み取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討のご本人に実際に会いに行き、見極めの努力をしている。体験入居や一日体験という仕組みを活用しながら見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心がけている。スタッフのことを一緒に暮らしていると思っているご入居者様が多いと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご面会や電話があった時などホームでの様子をお伝えし、ご本人様と十分時間を取って頂くよう心掛けている。必要があればご家族の協力を要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問しやすい雰囲気づくりによって支援に努めている。	ホームは家族や親戚等が訪問しやすいよう環境づくりに心がけている。利用者は毎日散歩することで、地域の方々と顔馴染みになり、立ち話をする間柄になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たとえどんな状態のご入居者様も孤立させないように日々考えながらケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもいつでもご相談頂ける様お声かけし、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話できるご利用者様には常に話しかけ、困難な方には日々様子観察し、変化を見ながら最善をつくすようにしています。	日常生活での会話を大切にし、利用者の悩みや何をしたいか等の把握に努めている。困難な方は些細な変化、例えば目の瞬きがいつもと異なる事に気付いた時等、現場の職員で話し合い利用者の視点に立ち検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初めにお聞きしている。入居してからも新しい情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご入居者様のご様子はスタッフ間での連絡、報告、また記録を見ながら共有するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、ご家族様の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	モニタリングは毎月実施している。家族とは面会時や運営推進会議に参加した時、現状の問題点や希望等を聞き取り、担当者会議で話し合い各利用者に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は欠かすことなく毎日行い、特変、対応、その結果については詳しく記入するようにして早めの対応に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎の支援などご本人やご家族様の状況に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加したり近所への散歩によって自然に触れ季節感を楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望の方は、その医療を受けて頂くようにしている。ご家族が受診対応できない時には受診付き添いを行っている。	内科は月2回、協力医院の医師と看護師同行の往診がある。急変時は管理者、または現場リーダーが窓口となり医師と連携を図り、指示を受け支援をしている。かかりつけ医や精神科・眼科等の専門医は家族の受診対応を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックの情報など気づいた点を詳しくかかりつけ医に伝え、適切な受診を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADL等の情報を伝え、退院後には施設での生活がスムーズにいくように、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも終末期の対応の指針についてご説明をしている。ご本人の様子を見ながら管理者と共にご家族様と話し合いを重ね、共有を図っている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、医療に関わらなければ当ホームで看取る方針を伝えている。まだ看取り経験は無いが、ミーティングで看取りの対応方法を話し合い、いつでも支援ができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや現場で初期対応の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っている。夜間を想定した訓練を行い、地域の賛同者の方の協力を得ている。今後はより連携を計れるようにしたい。	消防署立合で災害と消火器訓練を年1回、ホーム内夜間想定火災訓練は本館と合同で実施している。訓練実施後は問題点等を話し合い検討している。民生委員や地域在住の職員家族の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念のもと、常に心掛けている。	利用者は人生の大先輩と受け止め、一人ひとりの尊厳を大切に言葉かけに努めている。各利用者の居室へは職員でも勝手に入る事を禁じ、排泄時はドアを必ず閉める等、プライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認をし、難しい時には決定しやすい問いかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでレクを楽しんで頂くことが中心ですが、居室で過ごす時間が必要な時には尊重している。全員が参加して楽しめるようなレクを行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は男性らしく、女性は女性らしくを心がけている。支援が必要な方にはスタッフ一同連携をとって行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、食事、片付けと、ご入居者様、職員一緒に行っている。	利用者は全員、できる範囲で職員と一緒に食事の準備から後片付けを行い、箸使用で普通食をおいしく頂いている。利用者の好みを把握して献立に取り入れたり、行事食や季節の食材を活す等、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録し、支援している。水分摂取には特に力を入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には全員のご利用者様が口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しながら、早めのトイレ誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表には排尿・排便所状況や水分量等が記録され、各利用者の状態が把握できている。夜間は個々の排泄パターンに合わせて誘導することで、全員が一日を通しトイレでの排泄が出きている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、飲食物の工夫、水分摂取、運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。入浴を楽しんで頂けるよう心掛けている。	入浴日は一カ月間のシフトを組み、一人週2～3回入浴ができるように決めている。入浴担当職員(3人)が決まっており、午前中に利用者全員の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツ交換をして夜間は安心してお休み頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し、スタッフは一人ひとり間違いなく薬を服用する様気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様一人ひとりが気分転換の行い方が違うので、スタッフ同士、連携を取り、支援を行うようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に散歩を心がけている。色々なコースを考え、喜んで頂ける様行っています。	天気の良い日は散歩が日課となり、近隣の公園で季節毎の花見や買い物等を楽しんでいる。昨年は市内の中華屋さんへホーム全員でラーメンを食べに車で出かけ好評であった。	近隣の外出支援は充実しているのので、車での外出を無理のない範囲で、本人の意向に沿えるような検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所管理。今後買い物に行った時にはご本人が支払いを出来るような支援を行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞いなどを書いて、可能な方にはポストへの投函をいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地よく過ごして頂くよう、毎日清掃と換気は必ず行っている。リビングには季節感のあるものを飾るようにしている。	利用者全員が毎日、体操、唱歌、レクリエーション等を職員と一緒にやる明るいリビングは、一日の大半を過ごす生活の場所になっている。「ここは一人じゃないから寂しくないのよ」との声も伺えた。雨の日は広い廊下を歩行訓練の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、静かに過ごされるのが好きな方々と様々ですが、安心して過ごして頂けるよう、居場所に関してはテーブルや椅子の配置の工夫など工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に、使い慣れた家具や衣服などを居室に置いて頂くようお願いしている。食器も使い慣れたものを持ってきて頂き、それらを大切に使っています。	各利用者は起床後、日常着に着替え、ベッド上の布団をたたみ、居室の掃除を職員と一緒にやり、一日が始まる。家族が季節毎に衣類等の交換に訪れる事で、家具の持ち込みは少ないが各居室は整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレだと分かるように名前をつれたり目印をつけている。椅子にもご自身の座布団を置き、わかりやすくなっている。小さなことでも一人で出来るように支援したい。		